

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

大野町長 宇佐美 晃三

市町村名 (市町村コード)	大野町 ( 21403 )
地域名 (地域内農業集落名)	大野・豊木・富秋・西郡地区 ( 富秋地区 )
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年9月20日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

富秋地区の中心経営体数は8経営体となっており、法人を除く半数以上が60歳以上であり、若年層の担い手が不足している。また法人に関しても高齢化やオペレータ不足が進んでいるため、将来を見据えた担い手の確保や後継者の育成が必要である。現在は、経営体を中心に農地集積が進んでいるが、今後は、農用地の集約化や圃場の大型化を推進することにより農業の効率化を図る必要がある。また、山林が近い農地については、有害鳥獣の被害が多く発生しているため対応が必要となっている。

畑地については、集団化されておらず、畑地の担い手が少ないこともあり、農地の集積は進んでいない。

【地域の基礎的データ】

中心経営体:6人(うち60歳代以下2人)

団体経営体(法人・集落営農組織等):2経営体

主な作物:水稲、麦、大豆、蕎麦、バラ苗、柿、ぶどう

(2) 地域における農業の将来の在り方

水稲、麦、大豆、蕎麦を主要作物とし大野町の特産品であるバラ苗、中心経営体を中核として農地中間管理機構を活用した農用地の集積・集約化を進め、経営効率の向上を図る。さらに農作業の効率化を図るため、スマート農業の導入を進めることで、持続的な農業経営を行っていく。山間地では柿、ぶどうなど果樹を中心に集積・集約化を推進していく。また、大野町の特産品であるバラ苗については、生産拡大を目指し農業機械の導入による省力化及び人材の確保を図る。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	172 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	172 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	— ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地を農業上の利用が行われる区域とした。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
農地中間管理機構を活用して、担い手中心に農用地の集積・集約化を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
農地所有者の意向により、個別に担い手に農地が貸付され、集約化が進んでいないため、新たに貸付対象となる農地は全て農地中間管理機構を通じた貸付とし、担い手の効率的な営農につながる農地の集約化を図っていく。
(3)基盤整備事業への取組方針
土地改良区、地域の要望を受け、農業の生産効率の向上等を図るため、用水パイプラインの基盤整備事業を進めている。現在は、黒野東地区から上秋地区で事業が進められており、将来的には古川・寺内地区及び稲富地区で実施予定である。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
認定農業者や新規就農者の確保に努め、町・県・JAと相談体制を確立し、農地の斡旋や技術的指導の支援を行っていく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
効率化が期待できる作業は委託を進める。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/>	①鳥獣被害防止対策	<input checked="" type="checkbox"/>	②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/>	③スマート農業	<input type="checkbox"/>	④畑地化・輸出等	<input checked="" type="checkbox"/>	⑤果樹等
<input type="checkbox"/>	⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/>	⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/>	⑧農業用施設	<input type="checkbox"/>	⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/>	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ①シカ、イノシシ、サル等の被害が多く、補助金等を活用し、侵入防止柵等の設置及び管理を地域で実施している。
- ②環境へ配慮した減農薬栽培を推進する。
- ③スマート農業の推進により、作業効率の向上や省力化を図っていく。
- ⑤柿の栽培やぶどうの栽培を行っている。
- ⑦遊休農地の発生防止・減少を目指し、農地の維持及び集積に努めている。また、多面的機能支払交付金を活用し、集落内の農用地、農道及び水路等の施設の保全管理を実施している。

農業上の利用が行われる農用地等の区域(富秋地区)

